

[成果情報名]地域づくりコーディネータ育成のための研修プログラム

[要約]自治体職員や一般市民などを対象とし、見学・実習・実践の3ステージから構成された地域づくりコーディネータ育成のための研修プログラムで、研修生が地域づくりワークショップ手法を実際に運営できる水準まで習得できる。

[キーワード]地域づくり、コーディネータ、人材育成、ワークショップ、研修プログラム

[担当]農工研・農村計画部・地域計画研究室

[代表連絡先]電話 029-838-7548

[区分]農村工学

[分類]技術及び行政・普及

[背景・ねらい]

いま農村地域を活性化する上で求められているのは、「仕掛け人」と呼ばれるような地域づくりコーディネータの育成である。地域づくりのための人材育成に関しては、人員を配置したり、予算的措置を講じたりするだけでは充分とはいえず、地域づくりのノウハウや技術を習得した人材をいかに育成するかが鍵を握る。そこで茨城県常陸太田市を対象とした介入的研究（実際の地域を対象に手法の検証を行う実践的研究）によって、地域づくりコーディネータ育成のための研修プログラムを開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 研修対象と目的：地域づくりに対して意欲のある自治体職員や一般市民などを、地域づくりワークショップを実際に運営できるようにする。常陸太田市（図1）では教育委員会エコミュージアム推進室職員（4名）、一般市民から選出されたエコミュージアム推進委員（教員OBなど32名）などを対象としている。同市の取り組みのユニークな点は、市職員を地域づくり支援専門チームとして組織し、一般市民を巻き込みながら地域づくり支援のノウハウを学び、実践している点である。
2. 研修プログラムの内容：見学・実習・実践の3ステージで構成され、ステージごとの研修内容は以下のとおりで、常陸太田市における実施状況を表1に示す。
 見学：研修生は、講師が企画・運営するワークショップを見学することによって、地域づくりのためのワークショップの進め方と効果を体験する。
 実習：ワークショップの進め方に関する基本的知識を講義で学び、見学した事例地域を題材にした実習（地域住民になったつもりで点検マップ、構想マップなどを作成）を行い、ワークショップ手法を習得する。
 実践：実際の地域を対象にワークショップを企画・運営し、実習で学んだ方法をマスターする。
3. 研修生と講師の役割：本研修プログラムが従来のワークショップ研修と異なる点は、実習および実践ステージにおいて、ワークショップの準備（住民との交渉、道具の購入、地図の作成など）を研修生自身が行う点にある。これによって研修生は対象地域に何度も出向き、住民との交渉術など、地域づくり支援に必要な事項を学ぶことができる。一方、講師は研修ステージが進むごとにその役割を減らし、研修生がワークショップを自力で運営可能となるように配慮する（表1）。
4. 人材育成の効果：常陸太田市では、研修を実施した翌年度（2009年度）、育成された人材が新たに市内5地区で集落点検ワークショップなどを自力で企画・運営し、さらに地域住民による実践活動を支援している（表2、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 自治体職員が地域づくり支援に多くのエフォートを投入する場合、地域づくり支援を職務として明確に位置づけること（上司や同僚の理解）が必要となる。
2. 育成された人材による地域づくり支援の持続性をより高めるためには、一般市民から育成された人材の地域づくり支援における役割をより強化していく必要がある。

[具体的データ]

表 1 常陸太田市における研修プログラムの実施状況(2007年12月～2008年11月)

年月日	ステージ	会場	科目	内容	研修生●、講師○の役割				時間
					参加	準備	運営	助言	
12/15	見学	里川	点検WS	講師が企画・運営する集落点検WSに参加し、進め方と効果を体験	●	○	○	○	6
1/12		里川	構想WS	講師が企画・運営する構想WSに参加し、進め方と効果を体験	●	○	○	○	3
2/17,18		山形県	先進事例視察	先進事例を視察、地域づくり手法を比較検討	●	○	○	○	6
2/24		里川	行動計画WS	講師が企画・運営する行動計画WSに参加し、進め方と効果を体験	●	○	○	○	3
4/27		里川	報告会	地域住民による報告会に参加し、地域づくりWSが地域住民に及ぼす効果を体験	●	○	○	○	3
3/21	実習	市役所	WSの講義	集落点検WS、構想WS、行動計画WSの進め方、効果、運営上の留意点の学習	●	●	○	○	1.5
5/17		里川	点検WS実習	集落点検WSの準備、地域住民になったつもりで集落点検、集落点検マップの作成・発表	●	●	○	○	6
5/24		市役所	構想WS実習	構想WSの準備、構想マップ、行動計画を地域住民になったつもりで作成・発表	●	●	○	○	4
7/27	実践	上宮河内	点検WS	集落点検WSの企画・運営	●	●	●	○	6
8/24		上宮河内	構想WS	構想WSの企画・運営	●	●	●	○	4
11/30		上宮河内	報告会	地域住民による報告会の企画・運営	●	●	●	○	3

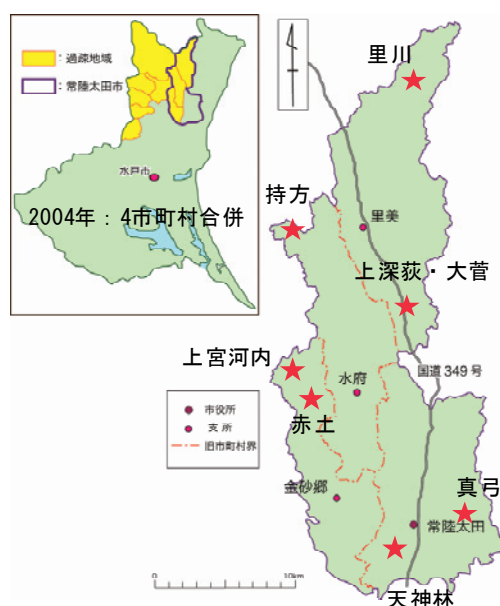


図 1 常陸太田市の概況

表2 人材育成の効果(2009年度の地域づくり支援実績)

月日	地区名(旧市町村)	活動内容
5/12	持方(水府)	集落点検WS
6/21		構想づくりWS
8/23		<u>自然体験教室</u>
11/23		<u>里川地区との交流会</u>
12/26		<u>自然体験教室</u>
5/23	天神林(常陸太田)	集落点検WS
7/11		構想づくりWS
10/25		点検結果と構想の報告会
1/31		<u>食と民俗文化イベント</u>
7/20	上深荻・大菅(里美)	集落点検WS
9/27		構想づくりWS
2/28		<u>報告会と体験教室</u>
10/11		集落点検WS
1/24	赤土(金砂郷)	構想づくりWS
3/14		<u>報告会とソバ打ち大会</u>
12/5	真弓(常陸太田)	集落点検WS
2/6		構想づくりWS

※2010年3月末現在、アンダーラインは地域住民による実践活動

注) 表 1、表 2 においてワークショップを WS と略している。

[その他]

研究中課題名：農村地域の活力向上のための地域マネジメント手法の開発

実施課題名：粗放的土地管理・利用計画手法の開発

実施課題 ID：413-a-00-003-00-I-09-7312

予算区分：交付金プロ(地域管理)

研究期間：2007～2009 年度

研究担当者：福与徳文、坂本誠、遠藤和子、芦田敏文

発表論文等：1) 福与、遠藤(2009)農業農村工学会誌、77(5):367-372